

# ダンスを通した大学間交流について

～表現活動としてのメディアシップXmasダンスフェスの取り組み～

中 島 孝 子

## はじめに

新潟県は昔から高校ダンスは盛んであるが、大学ダンスは認知度が低く、周囲にもあまり知られていなかった。14年前に筆者が担当していた新潟大学の「一般教養科目ダンス」の受講生が中心となって「新大ダンスチームMIMA」を立ち上げた時も、最初集まったメンバーはわずか数名で、踊れる場も大学祭などに限られていた。

仲間うちで学内で踊っているだけでは「井の中の蛙」状態で、一向に外に目が開かれず、ダンスの輪も広がらず、ダンスのレベルも上がらないと思い、まだ無理と言いつける学生を説得して結成4年目に初の学外自主企画公演「MIMA ライブ」を立ち上げて決行したが、その頃から急激にメンバー数が増えはじめ、神戸や富山などのダンスコンクールなどにも挑戦する意欲的な学生も出て来た。公演会場も300席の新潟市万代市民会館から470席の新潟市ユニゾンプラザ、そして530席の新潟市音楽文化会館と次第にグレードアップしていった。14年経った今では100名近くの大所帯にもなり、Tenyテレビ新潟の24時間テレビイベントをはじめ、内野中学校や内野公民館でのダンス講習会、佐潟祭り、西区ふれあい祭りなど地域の様々なイベントに呼んで頂けるようになった。

これに意を強くして新たに「ダンスを通した大学間交流」を目指そうと、新潟日報社に依頼して立ち上がった企画が「メディアシップXmasダンスフェスティバル」である。

きっかけは、「日報クリスマス子ども大会」（主催 新潟日報社、協賛 株明治）への出演が3年で終了し、次の受け皿となるダンスプロジェクトを模索していた時である。「日報クリスマス子ども大会」の担当者を通じて、新規のダンス企画を是非にと新潟日報社に話を持ち掛けたところ、メディアシップ側も丁度メディアシップのオープン（出航）から一年程経ち、広く一般にメディアシップを利用してもらう為の企画を探していたようで、日報担当者と第1回の話し合いを持った際、夏の「高校生ダンスフェスティバル」と連動した形で、冬には「大学生ダンスフェスティバル」を実施する方向で、運良く話はトントン拍子に進み、その場で12月23日（祭）の「日報クリスマス子ども大会」（新潟テルサ）と同日開催の形で大学生による「メディアシップXmasダンスフェスティバル」の開催が決まった。

4回目の今回、新潟中央短大の1年生有志が筆者の呼びかけに応じて5名のダンスチー

ムFOXYを結成して初参加したのを機会に、4年間継続してきた「メディアシップXmasダンスフェスティバル」の開催に至った経緯や運営の仕方、今後の展望、課題などについてまとめておくことにした。

(1) 第1回メディアシップXmasダンスフェスティバルについて (2014年12月23日)

第1回の参加団体は以下の通りである。

- 新潟医療福祉大学ダンス部
- 新潟医療福祉大学RIZE
- 新潟青陵大体操ダンス部
- 新潟青陵大学ストリートダンスサークル
- 新大ダンスチームMIMA

以上3大学5団体 (110名)

1年目は何もないところから新たに企画を立てる為、手探りの状態であったが、参加団体の選定や、出演交渉、更には2時間の公演プログラムを組む作業まで、ステージ関係は全て筆者に任せてもらえることになり、期待に応えようと早速まずは参加団体の選定に取り掛かった。

その結果、話を持ち掛けてすぐに上記の5団体から内諾を得て、初年度はこの3大学5団体でいくことが10月末には早々に決定した。

次はどんな作品を踊ってもらうかの作品選定とプログラミングの段階であるが、情報収集の為に10月～11月にかけては各大学の大学祭や、ダンスイベントなどに足を運んで、団体ごとのダンススタイルやジャンル、作品の人数や衣装など細かく視察を重ねて、ユニークな作品や意欲作など、是非メディアシップで踊って欲しいと思う作品を決定していった。それと平行して日報側には宣伝チラシの作成やBSNテレビ「ダイばん!」、日報WEBや日報紙面などで宣伝告知に力を入れて頂いた。

10月31日には各大学の学生代表者にメディアシップに集まってもらい、会場下見と併せ



図1 2014年度 宣伝チラシ

て、初顔合わせ会を実施し当日までの準備について打ち合わせを行った。控室は2階日報ホールを使わせて頂けることになったが、絨毯を敷き詰めたオープンしたばかりの新しいホールの豪華さに一同驚き感動したものである。

迎えた本番当日は朝9時からリハーサル開始、12時に日報ホールにて参加者全員の全体顔合わせの後、13時に予定通り開演となった。予想はしていたが初年度はマニュアルどおりにはいかず、スタート直後から目が回りそうな程の忙しさであった。

第1回の反省は多々ある。まず第一にはとにかくスタッフが足りなかったことがあげられる。進行役のプロのアナウンサーと新潟照明の音響さんは張り付きの為動けず、動ける運営スタッフは筆者と2名の日報側担当者、それに福祉大ダンス部監督と数名の学生ボランティアのみで当日乗り切ることになった。予想はされたが誘導などで裏方は激務だった。3大学5団体110名を2階日報ホールから1階の会場スペースまで誘導するために、1作品ごとに2階ホワイエで集合を掛けて点呼を取り、エレベーターで1階へ先導して待機させたのだが、スムーズにはいかなかった。スタッフの負担軽減の為と大学生にそこまでする必要は無いのではとの反省から、翌年の2回目からは各チーム毎にチームの責任者が進行状況を把握して2作品前に待機とし、待機が遅れた場合のみスタッフが誘導することに



図2 新潟日報朝刊に掲載された紹介記事

したが、初年度からそのようにすればもっと効率良く動けたはずであるが、何事もやってみなければ分からない。失敗から学ぶとはよく言ったものである。

嬉しかったことは晴天に恵まれ、心配された観客数が思いのほか多く集まったことである。観覧席の大階段はほぼ埋め尽くされ、2階ギャラリーも立ち見が出た。日報側の宣伝が効いたおかげである。次年度も継続して開催することになったので滑り出しはまずまず順調だったと言える。1年目は大変ではあったが何とか乗り切ったことで双方手ごたえを掴んだ。課題はスタッフの確保と不審者の対策の2点であった。

(2) 第2回メディアシップXmasダンスフェスティバルについて (2015年12月23日)

第2回の参加団体は以下の通りである。

- 新潟医療福祉大学ダンス部
- 新潟青陵大学体操ダンス部
- 新潟青陵大学ストリートダンスサークル
- 新大ダンスチームMIMA
- 国際情報大学ダンス部
- 新潟薬科大学ダンス部

以上5大学6団体 (120名)

2年目は1年目の反省を元に早々に参加団体の選定に入った。3大学ではやや少ないと感じて、新たに新潟国際情報大学ダンス部には新大ダンスチームMIMAの学生を通じて声をかけ、新潟薬科大学ダンス部には筆者が直接某イベントで声をかけて出演交渉した結

果、2大学とも出演してくれることになった。いずれも部員が100名近くの大きなダンス団体であるが、ジャンルごとにチーム化されているようで、そのうちの1~2チームが参加してくれることになった。筆者の知らないダンス団体であったため、どのようなダンスをしているのかプログラムを組むための参考に、この年は彼らの大学や、出演するイベントに足を運んで昨年以上に



図3 2015年度 宣伝チラシ



図4 新潟日報朝刊に掲載された紹介記事

情報収集に努めたが、参加団体が多くなるにつれ事務的な連絡などが煩雑となり、演目整理などにこの年はかなり手こずった。観客席はこの年も自由解放で出入り自由としたが、最前列に陣取るのは立派なカメラを抱えた常連の写真愛好家たちで、中には望遠レンズを使って容赦なく撮る人も出現し参加した学生から苦情が出た。相変わらずスタッフは数名と少人数で、頼りは学生ボランティア頼みの厳しい運営を余儀なくされた。この年も当日の運営スタッフ不足とイベント会場に現れる不審者の対策が大きな課題として残った。

### (3) 第3回メディアシップXmasダンスフェスティバルについて (2016年12月23日)

第3回の参加団体は以下の通りである。

- 新潟医療福祉大学ダンス部
- 新潟青陵大学体操ダンス部
- 新大ダンスチームMIMA
- 国際情報大学ダンス部
- 敬和学園大学チアリーディング部

以上4大学4団体 (118名)

この年から担当者が異動になり、それに伴って担当部署も現在の「ふれあい事業部」に変更になった。メディアシップもオープン(出航)から3年経て市民に認知されてきたようで、年間を通して様々なイベントが行われこの頃はだいぶ落ち着いた感がある。「メディアシップXmasダンスフェスティバル」も3回目になるといろいろと改善されてきて、今までボランティアを使ってしていた作業をバイトを使って出来るようになった。警備員も雇うことが出来るようになり、無線をフル活用して連携し不審者をマークして対策できるようになった。それまで大きな問題こそ起きなかったが、こういったオープンスペースでのイベントには毎回不審者がつきもので、本番待機中の女子大生に近づいて触ろうとする輩もいて、日報側のスタッフは毎回神経をとがらせていたが、3年目からはそういった心配をしなくても良くなった。さすがにプロの仕



図5 2016年度 宣伝チラシ

### サンタ姿で ダンス披露

新潟県内大学生

県内の大学のダンス部やチームによる「クリスマスダンスフェスティバル」(新潟日報社主催)が23日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開かれた。サンタクローズなどの衣装に身を包んだ学生たちが、多彩なダンスで観客を魅了し



サンタクローズの衣装でクリスマスダンスを演出して踊る大学生。23日、新潟市中央区

新潟、新潟医療福祉、新潟青陵、敬和学園、新潟国際情報報の5大学から計約120人が出演し、創作ダンスやヒップホップなど計26曲を踊った。

ダンスの構成は、全員がめまぐるしく位置を変えながら踊ったり、一人一人が見せ場を作ったりとさまさま。柔軟で切れのある若者たちの動きに、観客も手拍子で応えた。

友人が出演したという新潟市中央区の専門学校生、堀晴香さん(20)は「ストーリー性のあるダンスなど、各グループの個性が出ていて楽しめた」と笑顔で話し

図6 新潟日報朝刊に掲載された紹介記事

事ぶりは違う。物腰は柔らかいが、鋭く眼を光らせて動きを察知し、先回りしては迅速に不審者を排除していた。おかげで我々は安心してプログラム進行に集中できるようになった。これは1回目、2回目と大きく違う点である。また宣伝チラシもこの年からプロのデザイン会社に依頼して制作して頂くようになったが、完成度が非常に高く好評で、この点でもやはりプロの仕事は違うと実感した。

#### （4）第4回メディアシップXmasダンスフェスティバルについて（2017年12月23日）

第4回目の参加団体は以下の4大学4団体である。

新潟医療福祉大学ダンス部

新潟青陵大学体操ダンス部

新大ダンスチームMIMA

新潟中央短期大学ダンスチームFOXY

以上4大学4団体（100名）

4回目の今回は大きく変化した。まず第一の変化は、今までは宣伝チラシのみであったが、この年から立派なポスターも作成して頂けるようになり大いに宣伝に役立った。又、各団体には参加人数に応じてわずかながら交通費も支給されるようになり、学生バイトスタッフも3人雇い、1年目と比べるとかなり多くの関係者が連携して運営に当たるようになった。

2つ目の大きな変化は運営面で、今まで一般観客に開放されていた大階段はこの年から出演する大学生の保護者や関係者に座席指定券を配布する形で割り振ることになり、一般観客は2階ギャラリーで観覧することになった。これはカメラを携えて最前列に陣取るイベント常連の写真愛好家たちに対する苦肉の策だったようであるが、参加大学の関係者には概ね好評であったものの、今まで朝早くから

メディアシップに駆け付け、我先にと良い席を確保して楽しみにしてきた一部の観客からは「それではパブリックスペースでやる意味は無い」とクレームがついたようである。できるだけ多くの人に気持ちよく観て頂くにはどうしたら良いかと考えた末、一案として関



図7 2017年度 宣伝チラシ・ポスター

係者と一般で席を分け合う折衷案を提案してみたが、線引きが難しいとの理由で残念ながら採用には至らなかった。イベントが定着するにつれてこの階段指定席の割り振りは今後の大きな課題であり、今回はこういったパブリックスペースでのイベント運営の難しさを痛感した。

また今年度から各大学ダンス部やダンスチームに日報担当者が直接出向いて挨拶をし、学生と顔を合わせて簡単な打ち合わせを実施するようになったのも一つの変化である。

またこの年から事務処理の効率化が大幅に図られた。共有スプレッドなるものを利用し、4大学から出される演目整理なども一気に行えるようになり、筆者の事務的負担がかなり軽減されるようになった。アンケートなどもURLを用いて代表者を通じて全員にメールを送り、各自がそれに回答することで格段に効率化された。友人などへの宣伝告知などもメディアシップWEBが解禁されるのを待って一斉にツイッターやフェイスブックなどSNS（ソーシャル・ネットワーク・ソーシング）で拡散を依頼するなど、まさにメディアシップによるメディアの活用を目の当たりにすることとなった。これらに流れについていくのは正直大変であるが、この取り組みを通して少しでも理解し活用していければと思っている。

## Xマスソングに心躍らせて



多彩な飾りが観客を魅了したクリスマスダンスイベント「フェスティバル」が、新潟市中央区

**ピエロがお見事**  
バルーンアート  
新潟でも大会  
観て歌やパフォーマンスなどを楽しむ「第15回クリスマス大会」が20日、新潟市中央区の新潟デパートで開かれた。写真：午前、午後の2回合わせて約2700人が参加し、体を動かしながらにぎやかにクリスマス気分を満喫した。

**ダンス息ぴったり** 大学生らが新潟でフェスティバル  
県内の大学、短大生が出た新潟医療福祉生ダンス部は「クリスマスダンスのフェスティバル」で開幕。各グループは盛りだぶりのパフォーマンスを展開し、会場を沸かした。この日に合わせて仲間とチームを結成した新潟中央短大1年生の林結稀さん（19）は「初めて観客の前で踊るメンバーもいて緊張したが、幸せな気持ちだった。福井大、新潟青陵大、新潟中央短大のダンス部やチーム（2）は「笑いが伝わってきて素晴らしい」と見入っていた。



1つや、クリスマスケーキにしたり、ピエロが行われた。内野中学校の合唱部が「赤鼻のトナカイ」などのクリスマスソングを披露すると、子どもたちはその場で歌ったり踊ったりして楽しんだ。

図8 新潟日報に掲載された紹介記事

## まとめ

このダンスプロジェクトの筆者の役割は大きく分けて次の4つである。

- ①参加団体を選定して出演交渉し、承諾を得て決定すること。
- ②各大学の作品を実際に観て回り、順番を熟考して2時間のプログラムを組むこと。
- ③当日のリハーサルも含めたタイムスケジュールを決めて各大学に伝達すること。
- ④開演前の全体集会と終演後の全体集会を仕切ってまとめること。

年間スケジュールは大体次のようになっている。

- 9月・・・・・・・・・・第1回打ち合わせ（メディアシップ）
- 10月上旬・・・・・・・・参加団体の選定
- 10月中旬・・・・・・・・大学挨拶回り（日報担当者と）
- 11月下旬・・・・・・・・会場下見・代表者顔合わせ会（メディアシップ）
- 12月上旬・・・・・・・・プログラム作成
- 12月中旬・・・・・・・・タイムテーブル作成
- 12月23日(祭)・・・・・・・・本番
- 1月上旬・・・・・・・・反省会（メディアシップ）

12月の本番に向けて9月頃から準備をスタートさせるので、4か月近くは準備その他に費やすことになるが、ほとんどが自宅で空いた時間に出来る作業で、他で培ったノウハウも多少あり、4年経った現在では作業の流れがつかめてきたので苦にはならない。逆に今年はどうなXmasダンスフェスティバルにしていこうかというプロデュースする楽しみの方が勝っている。企画を立てたり、プログラムを考えている時間は筆者にとって夢が広がる至福の時である。

こういったボランティアはお金には代えられない多くのものを筆者に与えてくれる。終演後、お客さんが帰られた後、大階段に全出演者全員が並んで集合写真を撮るのだが、それを利用して毎年「思い出新聞」というのを新潟日報社の担当者が作成して下さり反省会の席上頂いている。これなどまさにお金には代えられない貴重な思い出になるものである。写真の中の学生からは、皆一様に本番を無事終えた満足感、高揚感が伝わってくる。本番の最中の学生たちの生き生きとした表情、観客の楽しそうな笑顔、これらすべてが筆者に達成感と満足感を与えてくれる。

最近のニュースでは新潟市の財政が逼迫しており、来年度の平成30年度から、「ラフォルジュルネ」が取り止めになりそうだと聞く。また「西区ふれあいまつり」のような地域と一体となったプロジェクトも経費削減の為、来年度から中止になったという。このような厳しい状況の中で新潟市の文化振興関係者に新たなダンスプロジェクトについて働きかけるのは至難の業であるとは思いますが、積極的に提言していきたいと考えている。

思い出新聞

# 新潟日報

2014年（平成26年）12月23日（火曜日）

新潟日報モア  
読者サービス部  
新潟日報印刷センター  
新潟市中央区万代3-1-1

発行所 新潟日報社  
本社 〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1

## クリスマスダンスフェスティバル

# クリスマスを盛り上げて



新潟市内の3大学の学生による「クリスマスダンスフェスティバル」が23日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開かれた。多彩で躍動感あふれるダンスが会場を沸かせた。

新潟医療福祉大、新潟大、新潟青陵大のダンス部やサークルの5団体約110人が出演した。

図9 2014年度 思い出新聞

思い出新聞

# 新潟日報

2015年(平成27年)12月23日(水曜日)

新潟日報モブ  
発行所 新潟日报社  
本社 〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1

## 県内5大学 ダンスフェスティバル in メディアシップ



# クリスマスをはやかに!

県内の大学のダンス部やサークルの学生による「クリスマスダンスフェスティバル」(新潟日报社主催)が23日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開かれた。学生たちはクリスマスをイメージした衣装やダンスなどで会場を沸かせていた。新潟青陵、新潟薬科、新潟国際情報、新潟、新潟医療福祉の5大学の約120人が、創作ダンスやヒップホップ、ストリートダンスといったさまざまなジャンルの計27曲を踊った。

クリスマスプレゼントを模した箱を手に踊ったり、2016年のえとにちなんでサルに着ぐるみを着たり、ダンス以外にも工夫を凝らしたステージに会場からは拍手や歓声が上がった。

新潟医療福祉大ダンス部は、この日のために作った創作ダンスを披露。3年生の五十田陽子さん(21)は「ミュージカルのようなリズムカルな動きも交え、会場と一体となって楽しくできた」と語った。

各校のステージを楽しんでいた新潟市西区の大学2年生、丸小知歩さん(19)は「大学によって踊りに個性が感じられ見ていて飽きない」と喜んでいた。

図10 2015年度 思い出新聞

# 新潟日報

2016年（平成28年）12月23日（金曜日）

MEDIA SHIP  
発行所 新潟日报社

本社 〒950-8535 新潟市中央区万代3-1-1

# 個性あふれるダンスで魅了

県内の大学のダンス部やチームによる「クリスマスダンスフェスティバル2017」（新潟日报社主催）が23日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開かれた。サンタクロースなどの衣装に身を包んだ学生たちが、多彩なダンスで観客を魅了した。

新潟、新潟医療福祉、新潟青陵、敬和学園、新潟国際情報の5大学から計約120人が出演し、創作ダンスやヒップホップなど計26曲を踊った。

ダンスの構成は、全員がめまぐるしく位置を変えながら踊ったり、一人一人が見せ場を作ったりとさまざま。柔軟で切れのある若者たちの動きに、観客も手拍子で応えた。

友人が出演したという新潟市中央区の専門学校生（20）は「ストーリー性のあるダンスなど、各グループの個性が出ていて楽しめた」と笑顔で話した。

図11 2016年度 思い出新聞

思い出新聞 2017

# 新潟日報

2017年(平成29年)12月23日(土曜日)

MEDIA SHIP  
発行所 新潟日报社  
本社 〒950-8525 新潟市中央区万代3-1-1



CHRISTMAS DANCE FESTIVAL 2017  
クリスマスダンスフェスティバル

## 多彩な踊りでフロアに華

県内の大学、短大生が出演する「クリスマスダンスフェスティバル 2017」が12月23日、新潟市中央区の新潟日報メディアシップで開かれた。登場した4校の計約100人がクリスマスの定番曲などに合わせ、フロアいっぱいにパフォーマンスを披露した。

若者の活躍、交流の場をつくろうと始まり、今年で4回目。新潟大、新潟医療福祉大、新潟青陵大、新潟中央短大のダンス部やチームが出演した。

ステージはサンタクロースやトナカイの衣装をまとった新潟医療福祉大ダンス部の「ジングルベル」で開幕。各グループは思ひつりの演技や、軽やかなステップなど多彩な踊りを展開した。会場を埋めた観客も手拍子で応えた。

この日に合わせて仲間とチームを結成した新潟中央短大の参加学生は「初めて観客の前で踊るメンバーもいて緊張したが、幸せな気持ちだった。また出たい」と笑顔で話した。

図12 2017年度 思い出新聞

## 今後の課題と展望

今後の課題と展望については次のように考えている。

### 1. 特色ある大学カラーの促進

毎回観に来て下さっている方々からは、「高校生と違って大人っぽい大学ダンスは大学ごとのカラーがダンスに見えるのが良い」と感想を頂いているが、今後更に大学ごとの特色を出せるようにすれば観ている人が更に楽しめるのではないかと感じている。

例えば、新潟医療福祉大学ダンス部は創作系のモダンダンスに力を入れているので、より表現的な創作ダンス作品を追求してもらったり、新潟中央短期大学の学生は幼児教育を専門に学んでいて、ミュージカルを授業の中にも取り入れているので、それらの特色を生かしたダンス作品を追求してもらったりといろいろな案が考えられる。

### 2. Xmas色に特化した作品の上演

12月のXmas直前イベントで、タイトルも「Xmasダンスフェスティバル」となっているので、全作品とまではいなくても、2～3作品に1つはクリスマスに関連した作品や、クリスマス色を強く出した作品で構成していきたいと筆者は考えている。

また観客に当日配布するプログラムも、更にクリスマス色を出して、下記のような夢のあるプログラムを観客全員に渡せたらどんなにか素晴らしいだろうと思う。ちなみに下記



図13 2016年度 日報ホール (控室) 用プログラム

のは2階日報ホールの控室用に特別に作成したもので、一般に配布しているのは別のプログラムである。

### 3. 参加団体

過去4年を振り返ってみると、現在のところ、新潟医療福祉大学・新潟青陵大学・そして新潟大学の3大学が定着している。新潟日报社から参加人数のキャパは120名以内で制限されているので参加人数は増やせないが、その代わりにもう少し参加団体を増やして1団体の作品数を減らし早着替えに余裕を持たせたい。また、大学ごとの参加者数のバランスも取り、それと連動して、現在は参加人数に応じて作品数を決めているが、これについても出来るだけバランス取って決めていければと考えている。

### 4. 観客数増加を目指した広報戦略の強化

「メディアシップXmasダンスフェスティバル」の日報担当者に過去4年間の入場者数を確認してみたところ、1年目は450人、2年目は予想以上の反響で1000人の観客が入ったそうである。これはたまたまこの日にメディアシップ来場者400万人目が出そうということで、テレビ、新聞などを総動員した新潟日报社の宣伝が功を奏したと考えられる。3年目はやや落ち着き600人、そして今回の4年目は700人であったそうだが、コンスタントに毎年1000人近くの大勢の観客が来てくれれば学生たちにとっても張り合いとなり意欲が増すと思う。

	<参加出演者数の変遷>	<観客数の変遷>
2014年度	110人	450人
2015年度	120人	1000人
2016年度	118人	600人
2017年度	100人	700人

### おわりに

メディアシップのような開かれたオープンスペースでこういったダンスプロジェクトを実施するメリットは、今まであまりダンスに縁が無かった一般の人たちにも敷居を低くしてダンスを気軽に観てもらえるということに尽きる。劇場のように閉ざされた空間で照明付き公演ともなると、どうしても経費が掛かり有料公演となってしまったりする。そうなると興味のある一部の人だけのダンスイベントになってしまい、広く一般にダンスが浸透



するまでにはいかない。啓蒙活動としてダンスの普及を考えると、こういったオープンスペースでの発表が有効と考える。その意味で、このメディアシップ1階みなと広場の大階段を観客席に利用しての観覧無料・出入り自由のオープンスタイルのダンスイベント開催は意義があると思っている。又、こういった機会を与えて頂いた新潟日報社には深く感謝している。

このダンスプロジェクトを通して筆者は「ダンスを通した大学間交流」を目指しているが、将来は県内の大学ダンスチームを連盟形式に組織して、最終的には本格的な劇場のステージで合同公演を開催することを願っている。大学ダンスが地域に根付き、こういった企画が定着すれば、もっともっとダンスを通した大学間交流が可能になっていくと思う。しかし現状は大学ダンス部やダンスチームは高校のように顧問の先生がしっかりと指導している団体は少なく、組織化するに当たって問題は多々残されている。

この「メディアシップXmasダンスフェスティバル」は「ダンスを通した大学間交流」の第一歩であると同時に、ダンスを通した筆者なりの社会貢献活動とも考えているので、可能な限り生涯現役で取り組んでいきたい。

また、個々の学生の表現技術は様々であるが、個々の学生の経験や身体能力を見極め、教師の言葉がけやダンスの指導により、学生の表現が豊かになっていくことがこの体験から明らかになった。特に今年は、ダンス経験がない学生の参加があったにも関わらず、仲間と一緒に数曲踊り切りしっかりと表現していた。表現指導法は様々であるが、今後は学生同士の支えやそのプロセスに目を向けて、表現の指導に役立てていきたい。

筆者は、教員に出来ることは学生に場（チャンス）を与え、方向性を示して提示し、やれると励まし、見守ることであると常々思っているが、大学生だからこそ可能な運営スタイルを模索しながら、これからもライフワークとして「ダンスを通した大学間交流」を目指していきたい。

---

## 引用文献

- (図 1) 2014年度 メディアシップXmasダンスフェス宣伝チラシ（新潟日報社）
- (図 2) 新潟日報朝刊 2014年（H26年）12月24日（水）
- (図 3) 2015年度 メディアシップXmasダンスフェス宣伝チラシ（新潟日報社）
- (図 4) 新潟日報朝刊 2015年（H27年）12月24日（木）
- (図 5) 2016年度 メディアシップXmasダンスフェス宣伝チラシ（新潟日報社）
- (図 6) 新潟日報朝刊 2016年（H28年）12月24日（土）
- (図 7) 2017年度 メディアシップXmasダンスフェス宣伝チラシ・ポスター（新潟日報社）
- (図 8) 新潟日報朝刊 2017年（H29年）12月24日（日）
- (図 9) 新潟日報モア 2014年（H26年）12月23日（火）
- (図10) 新潟日報モア 2015年（H27年）12月23日（水）
- (図11) 新潟日報モア 2016年（H28年）12月23日（金）
- (図12) 新潟日報モア 2017年（H29年）12月23日（土）
- (図13) 2016年度 Xmasダンスフェス・控室プログラム（新潟日報社）
- (図14) 2017年度 Xmasダンスフェス・控室プログラム（新潟日報社）
- (図15) 2016年度 Xmasダンスフェス・一般配布プログラム（新潟日報社）
- (図16) 2017年度 Xmasダンスフェス・一般配布プログラム（新潟日報社）